



北九州市立美術館

Kitakyushu Municipal Museum of Art

北九州市立美術館分館

KITAKYUSHU MUNICIPAL MUSEUM OF ART, RIVERWALK GALLERY

1974年、北九州市立美術館は市のほぼ中央に位置するランドマークとして誕生しました。丘の頂上に2本の筒(チューブ)が突き出た独特な外観。左右対称(シンメトリー)が徹底されたエントランス。のちにポストモダン建築で知られる建築家 磯崎新が手がけた初期代表作のひとつです。

開館以来、多彩な展覧会企画を展開するとともに、1987年には本館に接続するアネックス棟を開設。国内外の近現代美術を象徴する多角的なコレクションをめざし、ルノワール、ドガ、モネなどの印象派、江戸から明治にかけての浮世絵、タブローや版画を中心とする20世紀美術、西日本地域を中心とする地元作家作品を体系的に収集してきました。また、2003年には、複合施設リバーウォーク北九州内に分館を、2013年には、コムシティ内に黒崎市民ギャラリーを開設し、新たな展開を行っています。さらに、開館から40年以上を経過した本館は、長期休館を伴う大規模改修工事を経て2017年11月3日にリニューアル・オープンを果たし、新たな一歩を踏み出しています。

本館

分館

市民の生活に
潤いと心の豊かさを創出し、
地域とともに
成長していく美術館

コレクション展示室

企画展示室

リバーウォーク北九州5F

北九州芸術祭 総合美術展 水彩画部門 4月5日(火) ～10日(日)

毎日新聞社共催事業 吉村芳生展 超絶技巧を超えて 4月16日(土)～5月29日(日)

超絶技巧? 吉村芳生(1950-2013年、山口県出身)の鉛筆画はそんな単純な言葉では説明できない。毎日描き続けた膨大な数の自画像、1文字1文字をすべて書き写した新聞の一面、全長10メートルの花々。その作品はどれも超絶リアルでありながら、見る者の度肝を抜く。ただ、上手いだけではない、生きることの意味を問う作品の数々。ぜひ、その眼で「目撃」してほしい。九州初開催。

吉村芳生《無数の輝く生命に捧ぐ》(部分)
2011-13年、色鉛筆/紙

福岡県美術協会 2022北九州地区 会員秀作展 6月7日(火)～12日(日)

西日本新聞社共催事業
ストリートファイター
「俺より強いやつらの世界展」
6月18日(土)～8月7日(日)
全世界で大ヒットを記録し、2022年に35周年を迎える対戦格闘ゲーム「ストリートファイター」シリーズ。本展は2020年に福岡で開催された展覧会の巡回開催であり、「ストII」を中心に、「ストリートファイター」の歴史を豊富な資料や貴重な原画等でたどる。



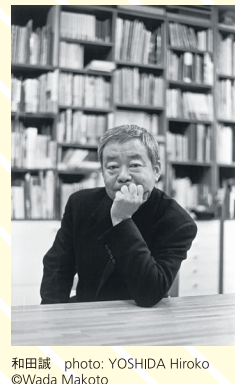
©CAPCOM CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

全国中学校総合文化祭福岡大会 8月18日(木)～19日(金)



祈りの軌跡・藤原新也展
9月10日(土)～11月6日(日) ※月曜日休館
写真家・文筆家・画家として多方面に活躍する藤原新也。「祈り」をキーワードに、初期作から最新作までの作品を一堂に展示する。北九州市立文学館と同時開催し、藤原新也の多彩な仕事を立体的に展開する。

藤原新也
《こんなところで死にたいと思わせる風景が、一瞬目の前を過ることがある》
©Shinya Fujiwara



和田誠 photo: YOSHIDA Hiroko
©Wada Makoto

和田誠展
11月19日(土)～12月18日(日)
和田誠は、イラストレーター、グラフィックデザイナーとして知られるが、その他にも、映画監督、エッセイスト、作曲家など、様々なジャンルで活発な創作活動を行った。本展では和田の多岐にわたる仕事の全貌に迫る。



リオデジャネイロ/コバカバーナ
©Mitsuaki Iwago

毎日新聞社共催事業
写真展
「岩合光昭の世界ネコ歩き2」
1月4日(水)～2月26日(日)
NHK BSプレミアムの同名人気番組で放送された、世界16地域の個性あふれるネコたちの魅力的な作品が並ぶ。
「ネコはヒトと共に生きています。『いい子だね』とカメラを向けるとき大切にしていることは、ネコを愛する気持ちです。その思いを察するのか、特別な贈り物のようなしぐさを見せてくれるネコたちに、愛は深まるばかりです。」岩合光昭

西日本工業大学
デザイン学部
卒業制作優秀作品展
3月4日(土)～12日(日)

門司港美術工芸研究所
20周年記念展
3月17日(金)～26日(日)



コレクション展Ⅰ
特集 没後30年 平野遼
4月9日(土)～8月14日(日)
人間社会のありようを見つめ、魂の画家といわれた平野遼。今年、没後30年を迎える平野の画業を当館コレクションから展観する。

平野遼《青い雪どけ》
1959年 当館蔵



ホログラフィ・アートの先駆者
石井勢津子
7月16日(土)～9月4日(日)
1970年代後半、3次元の映像を再生するホログラフィ技術を日本でいち早く創作に取り入れ、国内だけでなく世界中で発表を行ってきた石井勢津子。その初期から最新作まで自身初の大回顧展として開催。



葛飾北斎
《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》
1831-34年 当館蔵



石井勢津子《草原から海へ》2021年 作家蔵

ジョシュア・レノルズ
《ウォールドレイヴウスの貴婦人たち》1780-81年
© Trustees of the National Galleries of Scotland

コレクション展Ⅱ
特集 ひろがるイマジネーション
ゲスト展示: guest room 007 田中武
8月27日(土)～12月18日(日)
イマジネーションを強く刺激する特色ある国内外の作品を紹介。また近年収蔵された作品も公開する。



田中武
《白い馬》2018年
作家蔵(参考図版)



井上安治
《雪月花之内雪連草金竜山之図》
1885年 当館蔵



コレクション展Ⅲ
特集 浮世絵に見る江戸の名所(前期)
1月14日(土)～3月5日(日)
葛飾北斎、歌川広重、小林清親、井上安治らの浮世絵から、江戸時代の名所や旅の様相を紹介。また、北九州市に生まれ、雑誌『新青年』を中心に挿絵画家として活躍した松野一夫の晩年の風景画も展示する。

コレクション展Ⅲ
特集 浮世絵に見る江戸の名所(後期)
3月18日(土)～5月7日(日)